

エルゼビア社、引用文献データを用いて科学者の移住及び共同研究の傾向を分析した論文を発表 (1月8日)

学術誌出版社のエルゼビア社 (Elsevier) は、論文で使われる文献引用データを用いて、科学者の移住状況及び共同研究の傾向を分析した論文「科学者の国際移動及び共同研究に見られる傾向 ～計量文献学的調査を通して～ (International Scientific Migration and Collaboration Patterns - Following a Bibliometrics Line of Investigation)」を発表した。

本論文は、学術論文約2万編を含む同社データベース「スコopus (Scopus)」の中から、2000年から2012年の間に発表された論文を対象に、ブラジルや中国を含む研究新興国10カ国と、日本や米国を始めとする研究先進国7カ国の計17カ国を出身とする論文執筆者10万830人分のデータを使用して、執筆者の国境を越えた移住状況や、異なる国出身の科学研究者による共同執筆率を分析したものである。

これによると、国際的移住及び論文共同執筆は昨今増加傾向にあり、特に台湾から中国へ、イランから米国へ、そしてインドとパキスタン間といった、政治的緊張が高い国々の間での移住が高い率で発生しているという。

また、イラン、マレーシア、パキスタン、タイの科学者は、一時的に他国へ移住した後に自国に戻る傾向が強い反面、ドイツ、インド、日本、米国の科学者は、移住先に永住する傾向が強いことが明らかになっている。

なお、本論文は、<http://arxiv.org/ftp/arxiv/papers/1212/1212.5194.pdf>からダウンロード可能。

Inside Higher ED, Researchers analyze citation data to document trends in scientific migration and collaboration

<http://www.insidehighered.com/news/2013/01/08/researchers-analyze-citation-data-document-trends-scientific-migration-and>